

# イモリ

Vol. 32

# しんぶん

発行日：2022年 5月 24日

発行：朝日塾中等教育学校 理科

## アカハライモリの文献記録3

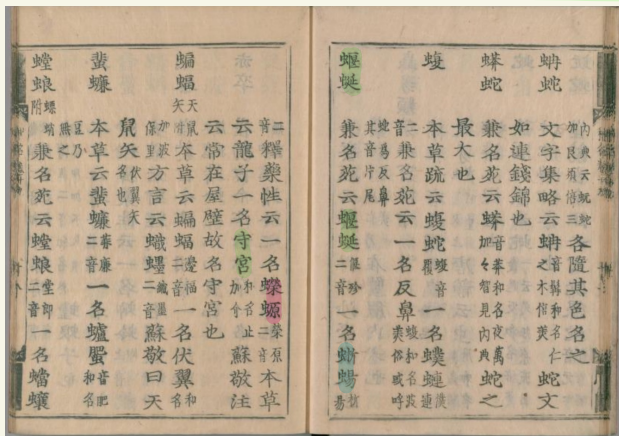
前回のイモリしんぶんでは、和漢三才圖會の紹介をしました。ここまできると、もっと古い記録を探したくなりますよね。ということで、もっと古いアカハライモリの記録を探しました。

訓蒙図彙 (きんもうずい) 1666年初版



国立国会図書館データベースより  
訓蒙図彙は、中村惕斎（なかむらてきさい）によって書かれた百科事典です。

和名類聚抄 (わみょうるいじゅしょう)

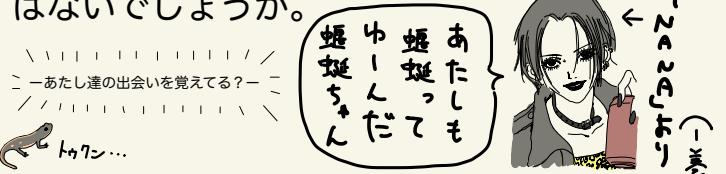


国立国会図書館データベースより  
平安時代（931~938年くらいに完成）  
に源訓（みなもとのしたごう）が編纂した  
漢和辞典です。

平安時代からイモリは  
認知されていた……ってコト!?



ちょっと待ってください。見出しにある蝾螈はヤモリを表す言葉です。また、守宮もヤモリです。その後の蝾螈（ゑいげん）はアカハライモリ（イモリ）をあらわす言葉ですし、蜥蜴はトカゲとよみます。おそらく、平安時代では、イモリとヤモリとトカゲが混同されていたのではないのでしょうか。



日本の書物にかかっている動物は、その動物種によって描写の程度が異なります。例えば、鳥類や魚類は非常に正確に描かれていることが多いです。しかし、両生類、爬虫類などはかなり適当です。

和歌で取り扱われる動物にもやはり差があります。例えば、万葉集で扱われている生物種は77種、歌数としては873歌になるそうです（田中 1998）。動物を取り上げた歌の約66%は鳥類です。それだけ、鳥類に思いをはせることがあったのでしょうか（ちなみにイモリは扱われず、両生類爬虫類を合わせて、動物がでてくる和歌のうちの3%程度しか取り上げられていません）。人気がある動物はいいですね。

参考文献

田中瑞穂. 1998. 万葉の動物考. 岡山県自然保護センター研究報告(6). 29-41.

もうええわ!!!

次回 イモリの文献記録4